

市民と行政の協働によるまちづくりを、
学芸会づくりに例えて解説します。



1 僕は協働小学校に通う小学生だ。
「今年の学芸会はこれまでにない楽しいものにしたいと思います。そこで、いつもはこの学校だけで学芸会を開催しますが、今年は地域の皆さんと一緒に試してみようかな。」と校長先生からお話があった。
話し合いの結果、僕のクラスは桃太郎の劇をすることになり、「どの役をやりたいか」、それぞれで考えてくることになった。
楽しい気持ちと不安な気持ちで、学芸会づくりがスタートした。



2 まずは、町内会長さんを訪ねて、たくさんの人に喜んでほしい僕たちのおもいを伝えた。
すると、「学芸会なんて、久しぶりだなあ。町内で盛り上げて、たくさんの人に喜んでもらえるような学芸会にしよう。地域みんなにも声をかけておくれよ。」とうれしい返事もらった。



●目的や目標を確認すること

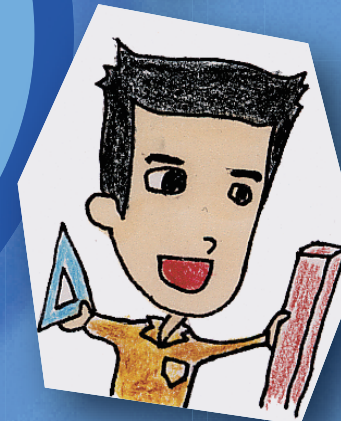
●役割や責任を分担すること

3 衣装班
デザインは僕たち子どもが書いて、裁縫が得意なPTAのおばちゃんがぬってくれた。



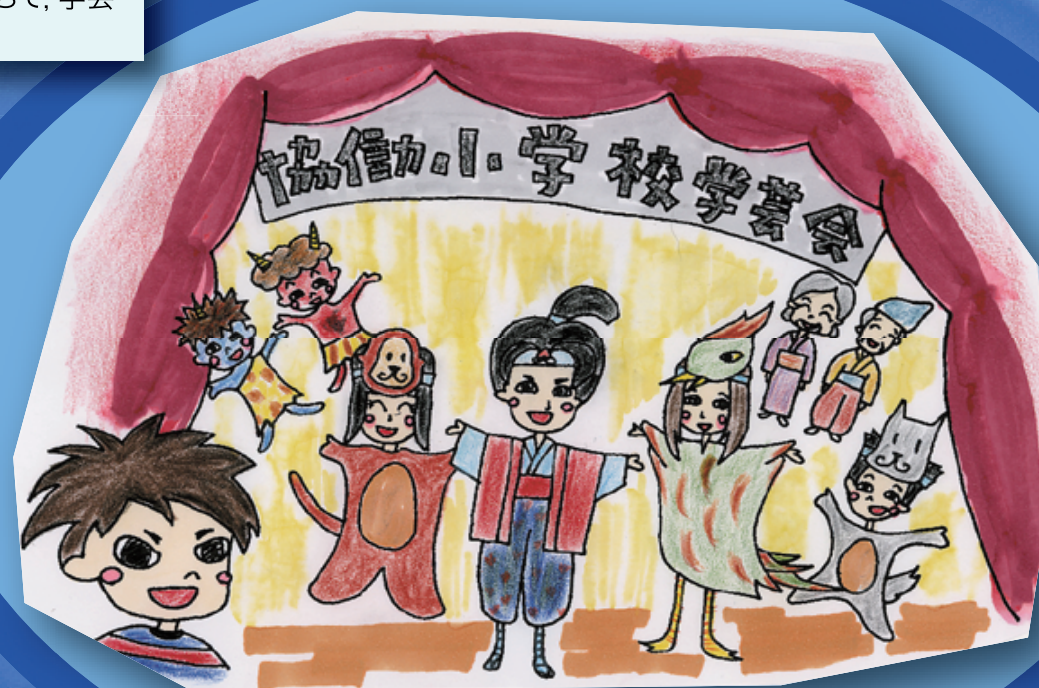
●お互いの違いや特性を理解し、尊重しあうこと

4 舞台班
近所の工務店で材料を少し分けてもらい、大工のおじちゃんと一緒に作っていった。



5 広報班
PTAの皆さんと僕たち子どもで手分けして、病院やコンビニなどヘチラシを配ったり、学校のホームページで学芸会づくりの様子を発信したり、劇を広くPRした。

●情報の提供・公開



7 いよいよ当日。
会場はたくさんのお客さんでいっぱい、最後には大きな拍手もらった。
正直つらいときもあったけれど、地域の皆さんと仲良くなれたし、たくさんの人に喜んでもらうことは、本当にうれしかった。
今では、地域の人たちとよくあいさつを交わすようになった。「劇を見て元気をもらえた。」「老人会の集まりでも劇を披露してほしい。」と言ってくれる人もいる。
僕たち子どもと地域の大人がよく話をするようになったせいか、「まち」がにぎやかになった。
社会で習った「まちづくり」ってよくわからなかったけれど、今回の学芸会のようなことから「まちづくり」って、始まるのかもしれない……。

●振り返り・評価を行うこと

●よく話し合いながら、情報を共有すること

6 班長会議
班長会議で各班の情報を交換しながら進めた。子どもの意見、大人の意見、いろんなアイデアが出され、おじいさんとおばあさんの役は、老人クラブの方が登場してくれることになった。

●まちづくりのパートナーとして、対等の関係であること

